

議事概要

会議名：三田市産業創造戦略見直しに関する意見交換会

日時：令和6年5月29日（水）19時～21時

場所：三田市役所 3202 会議室

意見交換

市民：戦略の中で一番力入れている項目や最重要項目はあるか？

市：第5次総合計画の中で取組項目として挙げている項目は、取組みを強めていくことを想定している。

市民：JCでは「ひとづくり」と「まちづくり」に取り組んでいる。計画期間が短いので、選択と集中が重要。①強力に推進するパートナーと取組むか、②緻密に事業計画に取組み、全てを達成するか、③優先順位を選んで徹底的に取組むか、この3パターンしかないと思う。①のパートナーが我々であれば嬉しいが、どこかに力点を置いて、3つ柱がある中の1つを選んでこれだけは絶対実施し、他に負けない強みを見出すことができればいいと思う。

市民：三田の魅力は人とあるが、具体的にどういう点か。

市：三田市は多様な人材が集っている点は大きな強み。ニュータウン地域の多様な属性の方が、今、シニア世代となり地域で活動できる土壌がある。

市民：アウトドアに力を入れると聞いたが観光はこの計画にないと思われる。アウトドアに特化すればもっと人が集まったり、自然に触れ合える三田に住もうとなったりするのではないか。

市：アウトドアについては「観光ビジョン」で掲げている。産業創造戦略でいうと、「まちの魅力向上」。行政的な分担はあるが、観光と産業が重なるところも当然ある。

市民：「まちの賑わいの創出」で、空き店舗の情報があって、出店できるならしたい。賑わいを作ることになる。

市民：「ひとづくり」のところで、外国人の記述がない。三田市には、46か国程の国からの1,100人程の外国人がいて、今も増えている。全国的に外国人を入れていこうという流れの中で外国の方が入ってきたら、もっと魅力あるまちになっていくのではないか。

市：外国人材についてこういう支援が望ましいという意見があればぜひ聞きたい。

市民：「社会課題解決に向けた新たなビジネスモデル構築」はまちづくりをビジネスにしようということか。

市：社会や地域の課題にビジネスの手法を使って解決に取り組む。市として地域の課題をしっかりと掲げ事業者から提案を受けることをイメージしている。

市民：市街化調整区域により空き家活用が進まない。市街化調整区域で商いはできないと思うが、法律自体が時代に合っていない。

もう一点、ソーシャルビジネスの話で、我々のビジネスも社会貢献に繋げていこうと方針に

落とし込んでいるので、連携したい。市の公民連携担当と連携を深める場を作りたい。

市民：「ひとつづくり」で、創業相談支援を行った者のうち起業した件数が102件とあるが、どんなことをされているのか。

市：多岐にわたる。飲食店や、福祉系の開業が多い。創業塾でカルテを作っていて、その中で把握している数字になる。

市民：起業後に補助金を出す等の支援をしているか。

市：起業・創業支援として、チャレンジショップ（応援事業）補助金の制度を用意している。また、商工会で、事業者間の交流や、県や国の補助金の案内を行っている。

市民：「三田ブランドの発信」で、具体的に市外にも伝わる魅力の発信を行っているか。

市：観光分野が中心になるが、JCのイベントやビール検定等、市外の方にも参画をしていただけるような形で発信を強める必要がある。

市民：市としての発信が弱いのでは。公式LINEも登録する市民にしか伝わってない。

市：ご指摘の通り行政以外の力をお借りしないといけない。市が発信できるツールとして、ホームページ、広報誌、LINE、Facebook、YouTubeも発信しているが、届いてないのは課題。いろいろなアイデアをお持ちだと思うので一緒に発信していけたら。

市民：私は、JCで広報担当をしていて、市民を巻き込んで取組まないといけないと思っている。市の取組みについても、文面をいただければ適宜言葉を変えて、こちらのSNSでぜひ発信させていただきたい。今後また相談させていただければと思う。

市民：流出対策は、高校生かなと思う。市外の大学に行ってそのまま戻ってこないパターンが多いので、流出を防ぐためには、高校生の段階で地元で働く場所があることを気付かせるとか。

市民：学生と企業の関わりを、例えば大学生より対象を下げた中学生のトライやるウィークの幅を広げる等だったらできるかもしれない。

市民：「生活・産業都市」とあるが、暮らせる、そして働ける場所というイメージでじっくり認識しているが、働ける場所というところで、求人倍率はどのくらいを思っているか。

市：三田市の求人倍率は低い一方、事業所によっては人手不足の状況。大阪等に勤めてきた方が定年を迎えて三田で仕事を探すとなった時に、望む職場や職種がなかなかないところが、ミスマッチが起きる大きな原因。ミスマッチを埋めていくような取組みが必要。起業も一つの選択肢になり得る。

市民：ファミリーが喜ぶ企業を誘致してほしい。ファミリーが楽しめそうな企業が入ってくれたら嬉しい。

産業創造戦略と観光ビジョンと文化芸術ビジョンと農業基本計画で、もう少しコラボするのがいいかと思う。事業をしていて、ファミリー特化はとても大事だと思う。